

読みたい聴きたい

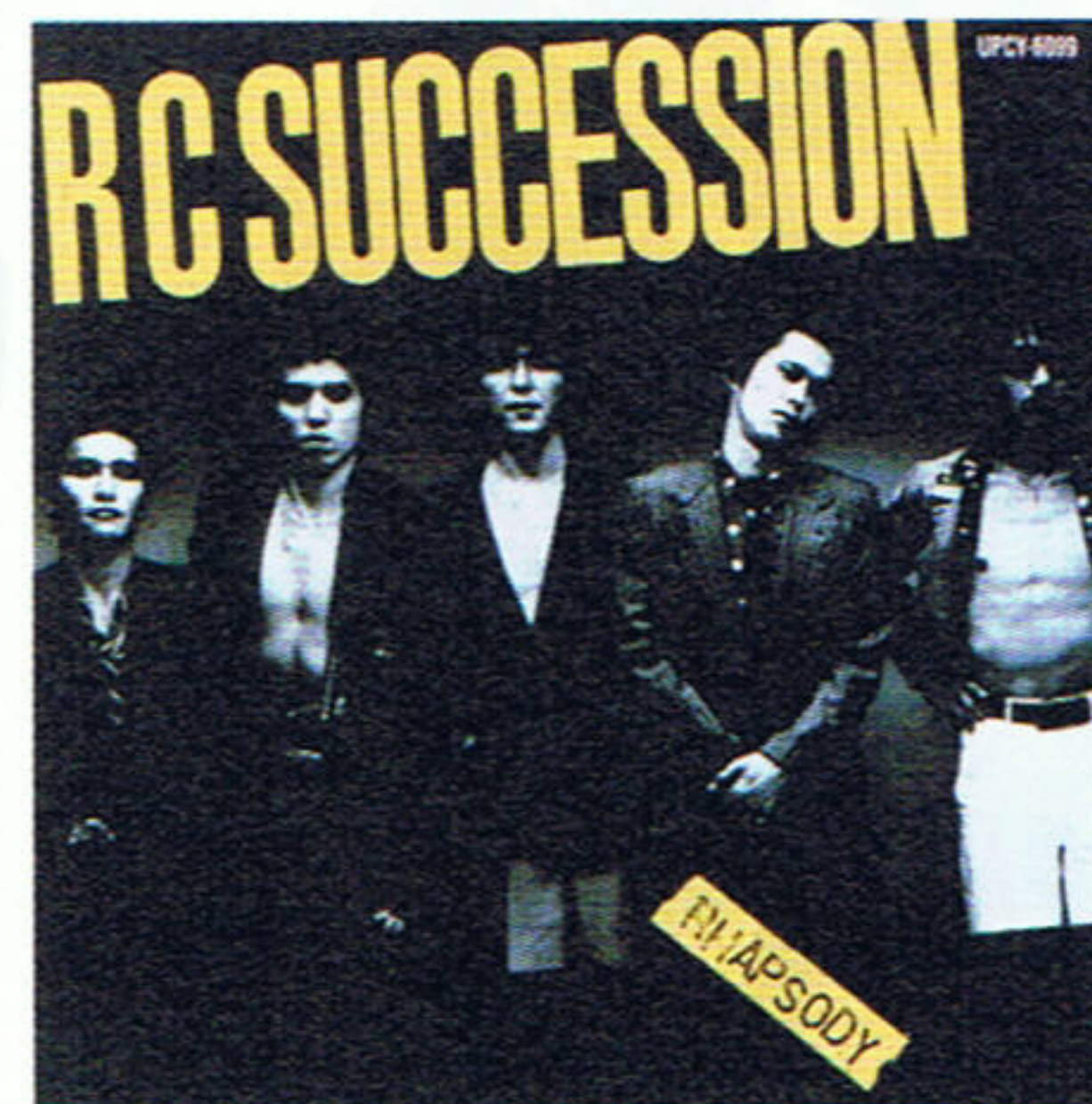
福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井実さんに、毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影/スタジオパッション

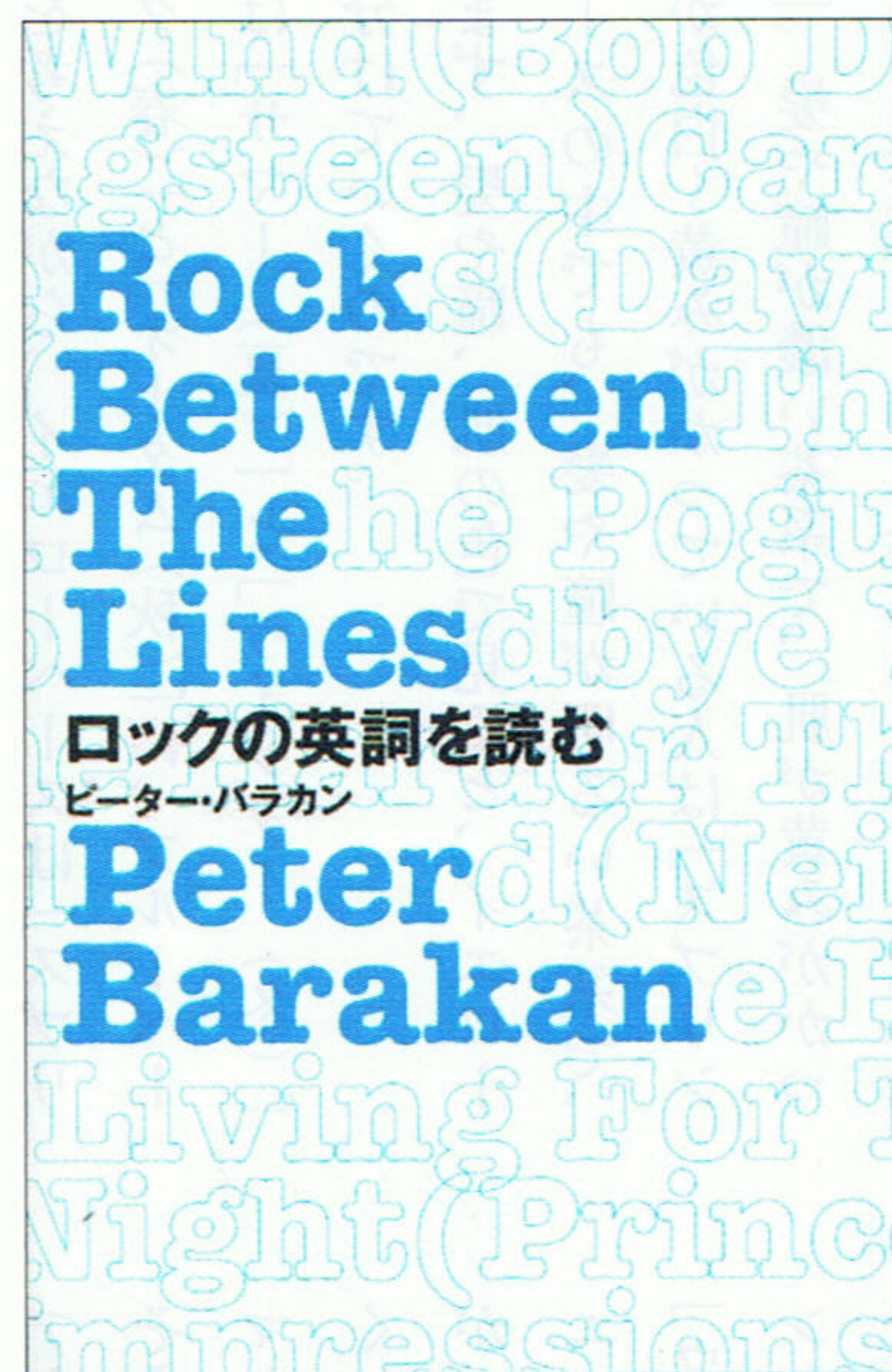
ココロに、 ウツクシク

(ロックの魂)

多感な時期に、鬱々とした心を解放してくれた
清志郎に、ありがとうございます！と叫びたい！

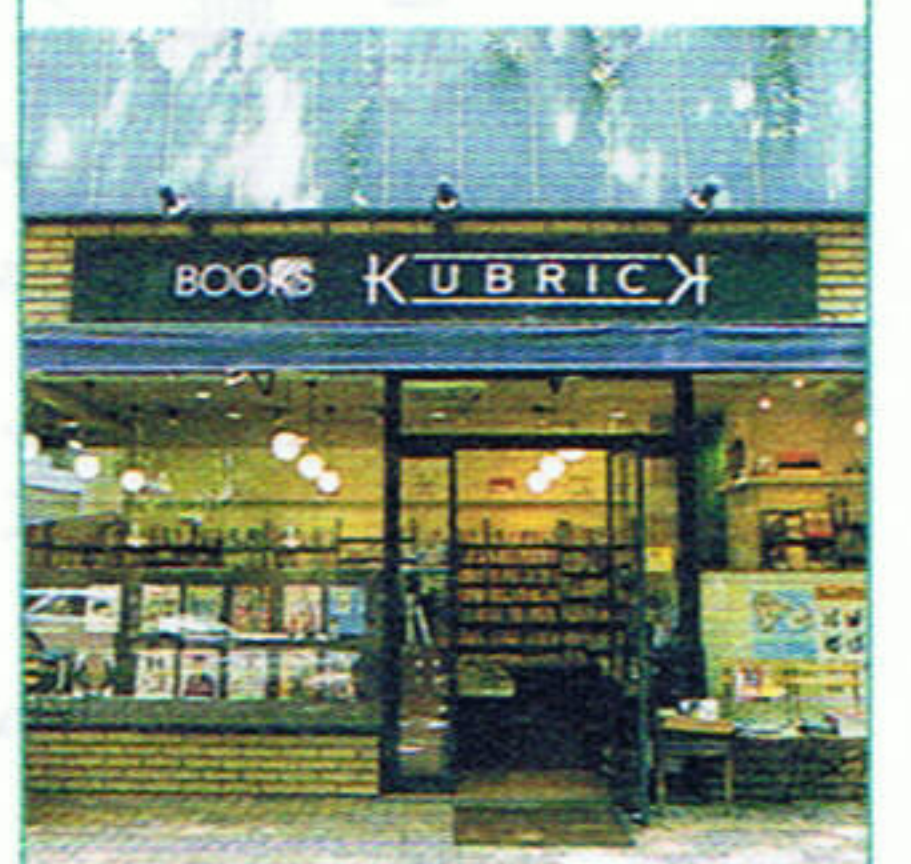


『ラブソディー』デジタルリマスター盤
RCサクセション
ユニバーサルミュージック
2,000円(税込)
UPCY-6099



『ロックの英詞を読む』
ピーター・バラカン
集英社インターナショナル
1,680円(税込)

■大井実さん
話題の一冊から普遍的な作品までを揃える福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー。東区箱崎にある箱崎店では、オリジナルブレンドコーヒーやスイーツ、ベーグルなどが楽しめます。ブックスキューブリック
福岡市中央区赤坂2-1-12 ネオグランデ赤坂1階
☎092-711-1180 <http://www.bookskubrick.jp>



今回は今年の5月に私の敬愛するロックシンガー・忌野清志郎が亡くなったため、追悼の意を込めて音楽の話から始めさせていただきます。

私にとって清志郎は、まさに青春そのもの。学生時代にはよくライブにも足を運んでいました。特に愛聴していた『ラブソディー』というアルバムは、デビュー当初フォークバンドとして活動していたRCサクセションが、ロックに転身してから最初にリリースしたライブ盤です。一曲目の『よーこそ』は、メンバーを紹介する内

容にもなっていて、この曲を初めて聴いた時は、それまでライブの出だしからメンバーの名前を叫ぶバンドなんて見たことがなかったため、度肝を抜かれました。『エネルギー』は、ステージを走り回る清志郎の姿が目につくようなエネルギーな曲。息を整えるようにバラードも挟みつつ、名曲中の名曲『雨あがりの夜空に』で、気分は最高潮に。坂本九の名曲『上を向いて歩こう』のカバーも収録されたバラエティに富んだアルバムですので、初めてRCサクセションを聴く人

にもオススメです。一見ド派手な彼ですが、感受性を豊かでもとて繊細なことは、歌詞を見れば一目瞭然です。言葉だけで情景が描けるような情緒的な表現。時には弱い立場のものを不条理に抑圧する社会や政治に対して、正面からキバを向く姿勢。そして、そんな社会に押さえつけられている人々に共感できるやさしさ。と、語るときりがありませんが、十代の多感な時期に気持ちの全てを代弁してくれるかのように唄い続けてくれた彼に、心から感謝しています。

オススメの一冊は、音楽評論家のピーター・バラカンの著作。そのタイトルの通り、ビートルズやサイモン&ガーファングなどの名曲の英詞を解説している本です。英単語と文法を知っているだけでは理解できない、微妙な英語の表現を日本語で細かく説明している丁寧な作りが嬉しいですね。歌詞の中に使われている重要な文法をピックアップしているため、英語の勉強にも役立ちそうです。また、曲が生まれる背景なども書かれているので、ロックファンにはたまらない一冊ではないでしょうか。